

淡路景観園芸学校の園芸療法課程

17人が決意胸に開講式

北淡町の県立淡路景観園芸学校（熊谷洋一校長）で2日、園芸を通じて高齢者や障害者のリハビリに取り組み園芸療法士を育成するための園芸療法課程が開講した。同日、校内で開講式があり、6月の試験に合格した受講生が出席して抱負を語った。同校によると、公立学校で園芸療法課程を導入したのは全国で初めてという。

開講式で、熊谷学校長は「障害や震災の後遺症などに悩む人たちの治療などに働くという。開講式で、熊谷学校長は「障害や震災の後遺症などに悩む人たちの治療などに働くという。」

県から来た看護師の西村美哉さん（30）は「園芸療法の技術と知識を身につけ、高齢化が進んだ地域で役立てたい」と意気込みを話した。受講生は来週から半年間、専門家の講義を受けた後、残り半年間は県内

外の医療施設で実習に取り組む。園芸療法は40年ほど前、米国で帰還退役軍人のケアを目的に開発され、現在では、障害や後遺症を改善する効果があるとして国内でも普及しつつあるという。



園芸療法課程の開講式で熊谷洋一学校長（左端）に抱負を述べる受講生ら
北淡町の県立淡路景観園芸学校で

受講生は、関東から九州までの20～50代の男女17人。職業は福祉施設の職員や造園設計業者などで、同課程で1年間学んだ後、米園芸療法協会が認定する園芸療法士の資格取得をめざし、将来は老人ホームや医療機関

平成17年9月3日(火)
朝日新聞 朝・夕版
朝日新聞 朝・夕版